

【今週の注目疾患】

《レジオネラ症》

2026年第43週に県内医療機関から1例の届出があり、第43週時点の累計は直近10年で最も多い131例となった（図1）。

レジオネラ症は、例年、夏から秋にかけて届出が多くなる傾向があるので、引き続き発生動向に注意が必要である（図2）。

図1:2016年から2026年第43週までの県内レジオネラ症届出数(診断年別,n=1085)

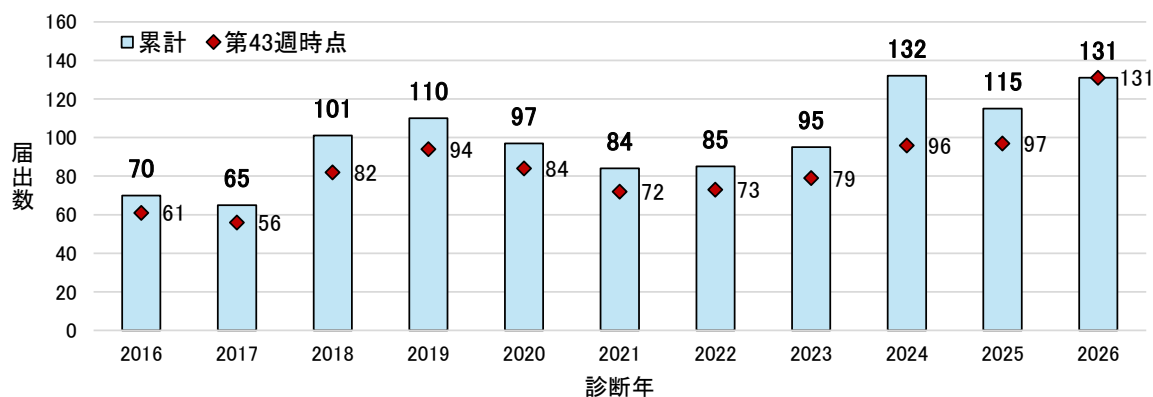
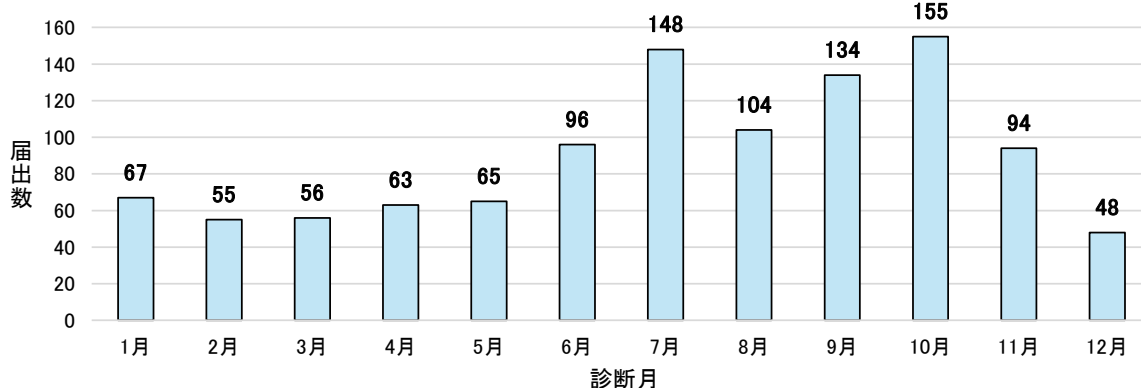


図2:2016年から2026年第43週までの県内レジオネラ症届出数(診断月別,n=1085)



2016年から2026年第43週までに県内医療機関から届出のあった1,085例の概要は以下のとおり。

病型別は、肺炎型1,025例（94%）、ポンティアック熱型48例（4%）、無症状病原体保有者12例（1%）であった。性別は、男性872例（80%）、女性213例（20%）であり、男性が8割を占めていた。年代別は、70代が276例（25%）で最も多く、次いで60代265例（24%）、80代218例（20%）であり、60歳以上が837例（77%）で約8割を占めていた。届出に記載のあった推定される感染原因・感染経路（重複あり）は、水系感染（エアロゾル感染を含む）が291例（27%）、塵埃感染が72例（7%）であった。

レジオネラ症は、土壌や水環境に広く存在するレジオネラ属菌による細菌感染症であり、主な病型として重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性で自然に改善するポンティアック熱がある¹⁾。

レジオネラ肺炎の潜伏期間は2日から10日で、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、寒気、胸痛、呼吸困難、下痢などの症状を呈する。また、意識レベルの低下、幻覚、手足が震えるなどの中枢神経系の症状を伴うこともある。特に高齢者、大酒家、喫煙者、透析患者、移植患者や免疫機能が低下している人もレジオネラ肺炎のリスクが高いとされている^{1,2)}。ポンティアック熱の潜伏期間は1日から2日である。突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まるが、一過性で治癒する^{1,2)}。

感染経路としては、エアロゾルを発生させる環境（循環水を利用した風呂、加湿器、噴水等の水景施設、空調設備の冷却塔等）を感染源とするエアロゾル感染、温泉浴槽水や河川の水を吸引・誤嚥したことによる感染、汚染された土壌の粉塵を吸い込んだことによる塵埃感染などがある。通常、ヒトからヒトへ感染することはないとされている^{1,2)}。

対策としては、風呂の配管や浴槽内に汚れやぬめり（バイオフィーム）が生じないように定期的に清掃を行うなど、取扱説明書に従って維持管理をすることが重要である。また、超音波振動などの加湿器を使用する時には、毎日水を入れ替えて容器を洗浄することが大切である¹⁾。エアロゾルが発生する高圧洗浄や、粉塵が発生する腐葉土の取り扱い等にあたってはマスクを着用して感染を予防していただきたい²⁾。

また、大雨や台風等の災害時には、清掃やがれき・汚泥の除去等の作業でレジオネラ菌を含む粉塵やエアロゾルを吸い込むことにより感染するおそれがある。清掃等の作業にあたる場合には、感染予防のためマスクを着用する³⁾。

■引用・参考

1)厚生労働省：レジオネラ症

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html

2)国立健康危機管理研究機構：レジオネラ症

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ra/legionella/index.html>

3)千葉県健康福祉部健康福祉政策課：浸水した家屋等の消毒方法について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/shinsuikaokusyoudoku.html>